K中通信

学校だより４号
令和４年６月 20 日
横浜市立軽井沢中学校

【学校教育目標】『主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします』

○ 様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます（知・徳・公）
○ 持続可能な社会の実現を目指し、しなやかに生きる力を育てます（体・開）

学校ホームページ http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/

体育祭が残してくれたもの

校長 佐藤 由利

梅雨時の体育祭は一週間くらい前から天気予報を気にする毎日が続きます。今回も、日々少しずつ変化する空模様に悩まされつつ、早めに延期を決めさせていただきました。保護者の皆さまのご予定に添えない部分が出てしまったことは申し訳なく思っておりますが、当日はとても過ごしやすい天候に恵まれ、無事に全プログラムを終えることができました。

開会式では、しっかりと私の目を見ながら、堂々と清々しく選手宣誓をしてくれた各色団長の姿に、空は曇っていましたが、とても晴れやかな気持ちになりました。また、徒競走で他の走者よりだいぶ遅れてゴールインした生徒に向けて応援席から沸き起こった温かい拍手をはじめとして、競技に参加している人たちの真剣な表情と共に応援席で仲間を応援するみなさんの姿が今年はとても心に残りました。

そして、感染症および熱中症予防の観点から考えると実施に踏み切るのには勇気のいった長縄跳び。事前の各クラスの取り組みの様子を書いた学級通信や、全体練習から本番にかけての各クラスの変化を見ていて、「どうすれば回数を多く跳ぶことができるか」に挑戦する中で、「互いの気持ちを一つにするには」「みんなのやる気を高めるには」何が必要なのか、ということがみんなわかってきたのだろうな、ということを感じました。技術的なことではありません。気持ちの面、そしてそこから発する言葉・表現についてです。例えば「もっとちゃんと跳べよ」と言われるよりも、「こうやるとうまくいくよ、一緒に頑張ろう」と言われた方が、苦手でも頑張ってみようかな、と思える、というようなことは、頭では理解していても、普段の生活の中でみんながみんな実践できていることではないと思います。それを自然に実践できる人が増えてきたのではないかな、と思ったのです。根拠は何か、と言われるとみなさんそれぞれの取り組む姿から、としか言えないことなのですが。

「少しでも多くの回数を跳んで他のクラスに勝つこと。」が最初のきっかけだったかもしれません。けれど、今回の取り組みを通して、相手に対してどんな態度で、どんな言葉かけをしたらお互いが気持ちよく過ごせるのか、クラスの中や仲間同士のやりとりのどういう場面でどんな行動がとれたらいいのか、ということが少しでも実感できた人は、ぜひその気持ちを忘れずにこれからの生活に生かしていってほしいと思います。

体育祭が残してくれたもの。賞状だけではないはずです。素晴らしい取り組みに拍手！